



石神小だより

8・9月号 令和3年8月30日
352-0033 新座市石神1-10-20
Tel 048(477)2152
Fax 048(482)6797
<http://www.c-niiza.ed.jp/e-ishigami>

学びの継続

校長 佐久間 幸代

猛暑に雷、豪雨。亜熱帯のような気候かと思えば、梅雨に逆戻りしたりと、改めて地球温暖化の深刻さを感じた夏休みでした。感染症も先の見えにくい状況です。8月2日から再び緊急事態宣言下となり、制約の中での2回目の夏休みでした。そしてさらに2学期に延長しています。本校では、7月に



6年生の林間学校代替行事と5年生の林間学校を実施することができました。ご理解ご協力いただき、ありがとうございます。2学期もできることを広げながら、子供たちの学びを継続していきます。

(SDG s 3)



アスリートの勇姿から

1年遅れで開催されたオリンピック。日本選手の大活躍に、大きな勇気と感動をもらいました。社会情勢を踏まえて、開催に様々な意見のある中ではありましたが、テレビには、これまでの成果を発揮しよう、思いの詰まった競技、演技、インタビューの様子が映し出されました。

今大会は、感染症はもちろん、様々な課題が新たに明確になり、種目や国によって、その対応も感じられました。

本校でも、社会情勢等を踏まえ、子供たちの主体的な学びの継続になるよう、安全安心を最優先に工夫していきたいと思っています。

2学期当初に予定されていた授業参観は、残念ながら中止、芸術鑑賞教室は延期、学校運営協議会は書面開催といたします。ご理解の程、よろしく願いいたします。

(SDG s 4、17)



防災・減災の感覚

西日本を中心に、再び豪雨に見舞われた日本列島。「自分の命や大切な人の命を守ること」の難しさを感じました。本校も災害時の避難所となっており、社会情勢を踏まえた避難所運営について、市役所危機管理課、町内会等関係の皆様と共通理解を図っているところです。

このような中、本年度本校は、アクサユネスコ減災プログラム助成校となりました。災害の起こる前から復旧に至るまでの避難所の役割とその在り方を研究していきます。感染症対策や1日も早い学校再開のためには、避難所の役割をどのように果たしていくことが大切なのかを、子供たちとともに考えます。また子供たちが、避難所の中で何ができるのか等、地域の中で自分たちにできることを考え、行動することで、地域への愛着とつながりを深め、改めて「自分の命や大切な人の命を守ること」の意義を、1人ひとりの心にしっかりとどめていきます。主担当の主幹教諭が、可能であれば東日本大震災で被害を受けた気仙沼の防災減災の基礎を学んできます。その後、5年生を中心に学びを深めていきます。

(SDG s 11)